



JR九州の豪華寝台列車「ななつ星」が29日、門川町の門川駅に初停車し、駅ホームでは町内の

ななつ星、門川駅に初停車 園児ら出迎え、記念の品を贈呈 JR九州

五つの幼稚園、保育園の園児をはじめ多くの町民たちが「よっこそ門川町へ」と書かれた町オリジナルの手旗を振るなどして温かく出迎えた。

今回のツアーの乗客は28人。このうち、観光バスで宮崎市の青島神社へ向かった13人に安田修町長、金丸隆康副町長、新原とも子教育長の3人が、昨年11月23日の「新嘗祭（にいなめさい）」で41年ぶりに皇室へ献上した同町産の米や、農林水産加工品のうち「トマトジュース」「ちりめんせんべい」などを停車記念にプレゼントし、喜ばれた。

祖母や友人と見に来た園田華梨さん（11）＝草川小5年＝は、「列車がとてきれいで、運転手もかっこよかった。門川駅に停車してくれてうれし。また見に来ます」と笑顔で話した。

ななつ星は春のダイヤ改正により、27日から新しい運行がスタートした。新ルートでは熊本地震以降2年ぶりに熊本県の阿蘇駅の停車を再開。本県で停車するのは3泊4日コースの3日目で、来年2月末までの毎週木曜日、門川駅は午後2時15分から約15分間、宮崎駅は同4時11分から約1分間の予定。連休あり。乗客のうち希望者は門川―宮崎間をバスで観光するプランがあるという。料金は3泊4日で1人72万円から。

南中校区内の郷土史

「知っておきたい地域の歴史」を発行

延岡市恒富南・中地区社協

延岡市の南中学校区に当たる恒富南地区・恒富中地区社会福祉協議会は、同校区内の歴史をまとめた郷土史学習資料「知っておきたい地域の歴史」を共同発行した（南中社会福祉活動協議会監修）。南中学校、南小学校、緑ヶ丘小学校に配本し、郷土学習の資料として活用してもらおうという。

郷土史の対象地域は恒富南地区（平原町、若葉町、沖田町、片田町、鶴ヶ丘、塩浜町）、恒富中地区（共栄町、伊達町、構口町、浜町、緑ヶ丘）。各種の文献や郷土資料、聞き取りを基に古い写真や地図、イラストなどを添付して、主に明治以降の歴史をまとめている。

その一部を引用すると、「浜地区に塩田が開かれたが水害で閉鎖し、その後、沖田地区に移され、平原塩田と称し、耕地整理が開始される明治43年まで続いた。浜の山（緑ヶ丘）に競馬場があり、九州各地から競走馬、農耕馬が集まって草競馬を開催していた。その競馬場は耕地整理後の平原塩田跡に移ったが、移転後に競馬が開かれたことはない」

「行政区の変化」「産業の変遷」「地域環境の変化」「学制改革の概要」「主な災害」の項目別に年表で示している。

このうち「地域環境の変化」では、▽昭和4年 浜の山（緑ヶ丘）草競馬開始▽昭和14年 浜の山の草競馬閉鎖▽昭和24年 台風による災害で塩浜の松林が消滅。沖田川氾濫、笹目瀧に洪水発生

▽昭和29年 沖田の塩浜塩田跡に競馬場を移転している。

延岡市社会福祉協議会が今年度の共同募金助成金活用による地域福祉推進事業（社会福祉協力校）で南中学校と恒富南地区社協・恒富中地区社協に贈った助成金の一部を活用して発行した。

編集した恒富南地区社協の坂本保男会長（86）は「南中校区内の歴史的変遷はこの地域に居住する者として知っておく必要がある」と思い、昭和59年に発行された『下平原のあゆみ』の貴重な記録を中心に主な項目を記したという。

500部発行し、南中に200部、南小に150部、緑ヶ丘小に100部を配本。学校の蔵書として活用してもらおうとのことだ。



地域の歴史

「知っておきたい地域」